

第3節 博物館事業

(1) 企画展・特別展示・ミニ展示

回	タイトル	開催期間	回	タイトル	開催期間
1	沖縄県芸術祭「写真部門」展	H1.11/1～11/5	27	東平安名崎の植物	H6.8/2～9/4
2	市民総合文化祭「書・絵画」	H1.11/8～11/12	28	金城美智子「光と影の世界」墨絵展	H6.11/1～11/20
3	沖縄の子ども版画展	H1.11/16～11/26	29	収蔵品展（美術工芸部門・他）	H7.2/1～2/26
4	平良市の主な御嶽	H1.11/28～12/27	30	よみがえる戦前の沖縄～写真展～	H7.5/2～5/14
5	宮古の主な遺跡	H2.1/9～1/31	31	現代宮古の作家たちⅤ	H8.8/1～9/2
6	電信・電話のうつりかわり	H2.2/10～3/18	32	子どもの世界	H8.11/5～12/1
7	トリアスロン栄光の記録	H2.3/27～4/22	33	池間島と八重干瀬－その出会いとロマン－	H9.5/2～6/1
8	現代宮古の作家たち	H2.5/1～6/24			
9	史・資料に見る多良間	H2.7/24～8/26	34	現代宮古の作家たちⅥ	H9.11/1～11/30
10	垣花恵子の世界	H2.9/26～10/7	35	宮古の植物群落	H10.8/4～8/30
11	沖縄の野鳥	H2.11/1～12/2	36	宮古の織物	H10.11/3～11/29
12	村のかじや	H3.2/5～3/3	37	海上の道と八重干瀬	H11.5/5～5/30
13	海上の道と八重干瀬	H3.5/3～6/2	38	公文書館資料に見る「海外移民の軌跡」と「宮古関係資料」	H11.11/2～11/28
14	戦国争乱・豊見親時代の英雄たち	H3.8/6～9/1			
15	宮古のマングローブ	H3.11/1～12/8	39	20世紀の宮古	H12.11/1～12/3
16	現代宮古の作家たちⅡ	H4.2/1～3/1		特別展 琉球王国のグスク及び関連遺産群	H13.6/1～7/1
17	戦後・宮古のあゆみ	H4.5/2～5/31			
18	港川人骨・明治の沖縄写真展	H4.8/1～8/30	40	海上交通と船の模型	H13.8/1～8/31
19	大塚勝久写真展	H4.9/15～9/20	41	宮原昌茂展	H14.2/1～2/28
20	宮古のサケ～サケを通して見る宮古の人びと～	H4.11/1～11/29	42	写真で見る40年前の宮古	H14.5/3～6/2
				沖縄県公文書館移動展 「資料に見る沖縄の歴史」	H14.6/11～6/23
21	沖縄のチョウ	H5.2/2～2/28	43	沖縄の染め織り～その素材と色の植物展～	H14.8/1～9/1
22	現代宮古の作家たちⅢ	H5.6/1～6/27			
23	沖縄の貝	H5.8/1～9/5			
24	住屋遺跡	H5.11/3～12/5	44	1940年代の宮古の空中写真	H15.6/17～7/20
25	収蔵品展《民俗部門》	H6.2/1～2/27	45	宮古の万葉植物と野鳥	H15.8/1～8/31
26	現代宮古の作家たちⅣ	H6.5/5～6/5	46	忠導氏仲宗根家資料展	H15.11/1～11/30

※回は企画展の通し番号です。

※平成15年までの詳細は『平良市総合博物館開館15周年記念誌（平成15年度年報）』に掲載済みのため省略します。

回	タイトル	開催期間	回	タイトル	開催期間
47	現代宮古の作家たちⅦ	H16.5/1~5/30		宮古のあゆみ	H24.6/20~6/29
48	不思議な種子の世界展	H16.7/27~8/29	22	宮古のマングローブ環境とそこに暮らす生き物たち	H24.7/11~9/2
49	第12回全国重要無形文化財秀作展	H16.10/28~11/28			
50	アイヌ工芸作品展in宮古	H17.1/21~2/20		第2回高校生学芸員企画展	H24.12/15~1/13
51	博物館収蔵品展	H17.5/1~5/29	23	現代宮古の作家たちⅨ	H25.2/23~3/24
52	湧水に暮らす甲殻類	H17.7/1~7/31	24	野鳥展	H25.4/27~5/31
1	現代宮古の作家たちⅧ	H18.5/2~6/4		戦争と子どもたち	H25.6/19~6/30
2	宮古のチョウと食草	H18.8/1~9/17	25	美ぎ布展	H25.7/20~9/1
3	石碑が語る宮古の歴史	H18.11/3~12/17		平成23・24年度新収蔵品展	H25.10/23~11/10
4	宮古の植物と私たち	H19.9/4~10/21			
	公文書館移動展 「映像と写真が語る宮古」	H19.11/20~11/30		金井喜久子展	H25.12/11~1/12
			26	宮古人のルーツを探るPart2	H26.2/14~3/18
5	沖縄の紙展in宮古島	H20.2/19~3/16		伊良部島・下地島の生きもの展	H26.5/2~5/27
6	インディアン・アート展	H20.5/3~6/8		戦争とは何か	H26.6/6~6/27
7	宮古の宝・サンゴ礁	H20.7/22~8/31		移動展 伊良部島・下地島の生き物展	H26.6/13~6/30
8	豊島貞夫写真展 風の島・宮古	H20.11/3~12/7	27	虫むし展	H26.7/25~8/26
9	博物館収蔵資料 美術展	H21.1/27~2/15	28	クバものがたり	H27.2/13~3/10
10	よみがえる島のわざ	H21.5/1~5/31		戦後70年 残されたモノ	H27.5/29~6/30
11	マクガン(ヤシガニ)と人の暮らし展	H21.7/22~8/30	29	ビルマス展	H27.7/17~9/1
12	宮古生まれの奇才・漫画家下川凹天	H21.11/4~12/6		平成25・26年度新収蔵品展	H27.10/30~12/1
	「収蔵品」展(自然)	H22.3/2~3/31		昔なつかしい昭和のおもちゃ展	H28.4/30~5/12
13	下地明増・堀泰明作品展	H22.5/1~5/30		宮古における日本軍の展開	H28.5/27~6/26
	沖縄戦から見る宮古	H22.6/14~6/24	30	宮古の危険生物	H28.7/20~8/31
14	宮古にもちこまれた動物たち	H22.7/21~8/29	31	現代宮古の作家たちⅩ	H28.10/28~12/11
	博物館収蔵市指定文化財及び旧家資料展	H22.10/26~11/7		昔なつかしい 昭和のおもちゃ	H29.4/30~5/7
					沖縄返還から45年 復帰への歩み
15	旧市町村収蔵品展	H22.11/30~12/26		与那覇湾ダーランド	H29.6/30~8/31
16	宮古人のルーツを探るPart 1	H23.2/1~3/6	32	大正時代・ミャークぬ写真展	H29.8/1~8/31
17	東平安名崎の自然と歴史	H23.4/30~5/29		ミニ移動展 中村十作展	H29.8/17~8/27
	今に残る戦争遺跡	H23.6/16~6/26		宮古・八重山の歴史を変えた男	H29.9/29~10/29
18	宮古上布・琉球絣・久米島紬	H23.7/26~9/4	33	平成27・28年度新収蔵品展	H29.12/15~1/31
	平成20年~22年度発掘調査展	H23.9/21~10/2		昔のおもちゃ展	H30.4/27~5/13
	平成21・22年度新収蔵品展	H23.10/25~11/6		米軍撮影空中写真からみる戦中の宮古	H30.5/25~6/24
19	高校生学芸員企画展	H23.12/20~1/22			
20	さんしん展	H24.2/25~3/18	34	東松照明写真展	H30.8/10~9/16
21	時代によってスタイルもかわる 「祖先のすまい展」	H24.4/25~5/20		宮古島市総合博物館「もの」がたり	H30.10/3~11/1
				宮古島市総合博物館「もの」がたり	H31.1/4~1/13

平成 16 年度 企画展・特別展示

第 47 回特別企画展 「現代宮古の作家たちⅦ」

2004 年 5 月 1 日（土）～ 5 月 30 日（日）

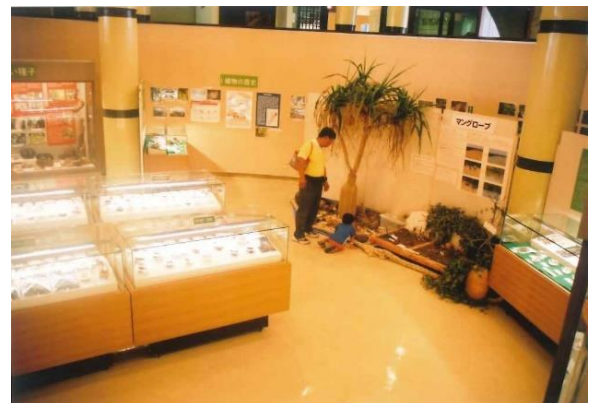
趣旨：宮古島内外で活躍する宮古出身の作家たちの作品を一堂に展示し、鑑賞に供するとともに、宮古の芸術文化の向上に寄与する。



第 48 回特別企画展 「不思議な種子の世界展」

2004 年 7 月 27 日（火）～ 8 月 29 日（日）

趣旨：植物の種子や果実の姿や形、その働きなどを通して、植物の積極的な生き様に着目し、固着生物である植物の子孫を残すための手段としての、種子の様々な散布方法を浮き彫りにする。植物の生活のしかたに関心を深め、緑の大切さを理解し、自然環境の保護につながることを目的とする。



第 49 回特別企画展

2004 年 10 月 28 日（木）～11 月 28 日（日）

「第 12 回全国重要無形文化財秀作展 日本の伝統美と技の世界」

趣旨：重要無形文化財保持団体認定を受けている 13 団体が連携し、伝統技術の保存伝承に努めようと、平成 4 年 6 月に「全国重要無形文化財保持団体協議会」を結成し、年に一度、秀作展を開催し、各保持団体の工芸品を広く一般に公開し、伝統工芸の普及を図る。

本展は 12 回目を数え、写真パネルやビデオ上映、また染色や漆芸、和紙などの製作工程の実演を公開する。



第 50 回特別企画展

2005 年 1 月 21 日（金）～2 月 20 日（日）

「アイヌ工芸作品展 in 宮古」

趣旨：アイヌモシリ（アイヌの大地）にて、北の大自然が育んだ伝統美・アイヌ伝統工芸の技術継承に取り組んでいる 3 名の作品を展示公開。自然と共生する生活からアイヌ民族が、創造・継承してきた伝統文化の一端を展示公開することで、北と南の文化交流の拡がりを目指す。



平成 17 年度 企画展・特別展示

第 51 回特別企画展 「博物館収蔵品展」

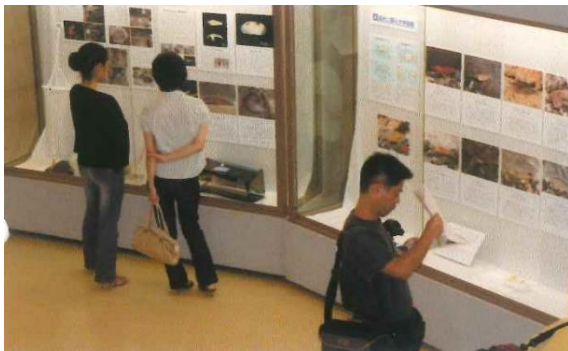
2005 年 5 月 1 日（日）～ 5 月 29 日（日）

趣旨：市民から博物館に寄贈・寄託された収蔵品を展示紹介し、謝意を表するとともに、今後の資料収集活動への協力を呼びかける。今回は、昭和 30 年前後から 50 年代頃までの衣食住・生業・葬制・祭祀等に係わる民俗資料を中心に展示紹介する。

第 52 回特別企画展 「湧水に暮らす甲殻類 ～地下水環境、生物、そして人との繋がり～」

2005 年 7 月 1 日（金）～ 7 月 31 日（日）

趣旨：宮古の湧水や地下水域に生息する生物、特に甲殻類を取り上げ、宮古の「水環境」を生き物の側面から紐解くことで、貴重な生物たちへの関心と水環境への保全に対する意識を高める。



平成 19 年度 企画展・移動展

第 4 回企画展

2007 年 9 月 4 日（火）～10 月 21 日（日）

「宮古の植物と私たち」

趣旨：植物の写真や種子などの標本を展示し、身近にある植物の世界を様々な角度から見ることによって、宮古の自然環境に対する理解を深めることに寄与することを目的とする。



公文書館移動展

2007 年 11 月 20 日（火）～11 月 30 日（金）

「映像と写真が語る宮古」

趣旨：沖縄県公文書館所蔵の映像記録と写真を展示公開することによって宮古の戦後に対する理解を深め、併せて公文書館の役割を紹介する。

主催：沖縄県公文書館

共催：宮古島市総合博物館



第 5 回企画展

2008 年 2 月 19 日（火）～3 月 16 日（日）

「沖縄の紙展 in 宮古島 ～自然・歴史・生活・アート～」

趣旨：沖縄の紙文化を考えるとともに宮古の紙の歴史を紐解き、今後の紙文化の可能性を探ることを目的とする。

平成 20 年度 企画展

第 6 回企画展

2008 年 5 月 3 日（土）～ 6 月 8 日（日）

「インディアン・アート展 ～カナダ北西海岸・トーテムポールのひとびと～」

趣旨：北米インディアンのシルクスクリーン絵画を通して、異なる民族の世界観に触れる。

展示協力：芹澤義夫



第 7 回企画展

2008 年 7 月 22 日（火）～ 8 月 31 日（日）

「国際サンゴ礁年特別企画展『宮古の宝・サンゴ礁～サンゴって何？』」

趣旨：宮古島をとりまくサンゴ礁に対する理解を深め、自然環境の保全意識の高揚を図ることを目的とする。

共催：日本サンゴ礁学会保全委員会普及啓発プロジェクトチーム・宮古島サンゴ礁ガイドのなかまたち

協力：宮古サンゴセンター



第8回企画展

2008年11月3日(火)～12月7日(日)

「豊島貞夫写真展 風の島・宮古一魂の原郷」

趣旨： 写真を展示公開することによって、宮古の戦後の社会の移り変わりに対する理解を深め、併せて将来への展望を築く手がかりとする。

展示協力： 豊島貞夫



第9回企画展

2009年1月27日(火)～2月15日(日)

「博物館収蔵資料 美術展」

趣旨： 寄贈された絵画作品を一堂に展示し、多くの市民の目に触れる機会を増やすとともに、宮古に生を受けた、あるいはかかわりを持つ作家たちへの、故郷へのこだわりや憧憬の念、深い思いを感受することで、宮古の芸術文化の向上に寄与することを目的とする。



平成 21 年度 企画展

第 10 回企画展

2009 年 5 月 1 日（金）～ 5 月 31 日（日）

「よみがえる島のわざ～^い往にし^え方の宮古上布～」

趣旨：明治の後半から昭和初期にかけて製作されたと思われる宮古上布約 150 点を展示・公開することで、今後の宮古上布の展望を図ることに寄与することを目的とする。

特別協賛：（有）Shinei（伸栄）

企画・展示協力：砂川猛、神里佐千子、仲間伸恵、羽地直子、羽地美由希

調査協力者：下地ミツ、仲宗根ヨシ、砂川キク、下地達雄、垣花英好



第 11 回企画展

2009 年 7 月 22 日（水）～ 8 月 30 日（日）

「マクガン（ヤシガニ）と人の暮らし展」

趣旨：ヤシガニの生態について解説し、その民俗学的資料や民芸品を展示して人との関わりを紹介することで、宮古の自然環境に対する理解を深め、意識の高揚を図る。

企画・展示協力：藤田喜久（琉球大学教育センター・非常勤講師）



第12回企画展

2009年11月4日(水)～12月6日(日)

「宮古生まれの奇才・漫画家^{しもかわへこてん}下川凹天」

趣旨：大正～昭和期に活躍し、日本漫画会の歴史に名を残した宮古島生まれの漫画家、
下川凹天（本名：偵矩、1892～1937年）のユニークな生涯をふりかえる。

企画・展示協力：根間郁乃（福祉保健部健康増進課）

協力機関（個人）：川崎市市民ミュージアム、野田市郷土博物館、北の浩之（野田市広報課）、稲葉多太司（弟子・野田市在住）、清水勲（漫画家・風刺画研究家）、大城亘武（沖縄キリスト教学院大学教授）



特別企画展

2010年3月2日(火)～3月31日(水)

「『収蔵品』展（自然）」

趣旨：当館に収蔵されている自然系の資料を広く一般に周知させることを目的として「収蔵品」展を開催し、宮古島でみられる主な貝類、鳥類、爬虫類、ほ乳類、甲殻類などの標本や剥製を用いて紹介するとともに、宮古の自然に対する関心を高め、さらにいっそうの自然保護の高揚に寄与する。

当博物館に寄贈された皆様に感謝の意を込めて一般公開し、今後も博物館の利用とご協力をお願いします。

平成 22 年度 企画展・特別展示

第 13 回企画展

2010 年 5 月 1 日（土）～ 5 月 30 日（日）

「下地明増・堀泰明作品展～ウイズ ラブ 宮古島」

趣旨：宮古島の画家、故下地明増氏の作品と日本画家・堀泰明氏の作品を軸として故明増氏を偲ぶ作家達の賛助作品を公開し、創作活動が続ける人々の心像に触れる機会とし、宮古の芸術文化の高揚を図る。

作品出品：故下地明増、堀泰明

賛助出品：下地良男、小川京子、吉村明

資料提供協力者：新城元吉、砂川幸夫、平良邦男、仲宗根將二



慰霊の日関連展示

2010 年 6 月 14 日（火）～ 6 月 24 日（木）

「沖縄戦から見る宮古 ー今一度、平和について考えるー」

趣旨：国内で唯一地上戦を体験した沖縄県は、基地問題や、不発弾等、未だ様々な問題が残っている。当時の宮古における戦争の状況を振り返りながら今一度、平和について考えることを目的とする。

第 14 回企画展

2010 年 7 月 21 日（水）～ 8 月 29 日（日）

「宮古にもちこまれた動物たち～どうしてここにいるんだろう～」

趣旨：宮古でも地域の生態系に悪影響をもたらす恐れのある外来生物が数多く確認されており、外来生物が持ち込まれた経緯や影響を紹介することで今後の宮古島の生態系や自然環境に対する理解を深めることを目的とする。

協力機関：沖縄県立博物館・美術館、市みどり推進課、宮古福祉保健所

協力者：藤田喜久、石川哲郎、岡徹、佐伯智史、城間恒宏、砂川博秋、前田健、山崎望、山本義彦



文化の日関連特別展示

2010 年 10 月 26 日（火）～ 11 月 7 日（日）

「博物館収蔵市指定文化財（歴史資料）及び旧家資料展」

趣旨：11 月 3 日は「自由と平和を愛し、文化をすすめる」事を趣旨とする文化の日であり、それにあわせて博物館収蔵（寄託含む）の市指定文化財（歴史資料・古文書）及び旧家の資料を公開し、広く市民の文化的向上を図る事を目的とする。



第 15 回企画展

2010 年 11 月 30 日（火）～12 月 26 日（日）

「旧市町村収蔵品展（宮古島市施行 5 周年記念）」

趣旨：宮古島市が誕生して 5 年という節目を迎えるにあたり、合併前の旧市町村に保管・管理されていた資料を展示・公開することで、各地域に古くから根付いた文化の営みを認識するとともに、宮古島の文化に対する理解を深める。

協力：多良間村教育委員会



第 16 回企画展

2011 年 2 月 1 日（火）～3 月 6 日（日）

「宮古人のルーツを探る Part 1 -12～16 世紀の宮古-」

趣旨：12 世紀以降の時代において、宮古で生活を営んでいた人々はどこから来てどのような生活形態を持っていたのかをミトコンドリア DNA 分析の実施や発掘調査の成果等を通して新たな視点で宮古の歴史を見直す機会とする。

協力：土肥直美



平成 23 年度 企画展・特別展示・ミニ展示

第 17 回企画展

2011 年 4 月 30 日（土）～ 5 月 29 日（日）

「東平安名崎の自然と歴史」

趣旨：宮古島市教育委員会では、平成 20～22 年度にかけて、東平安名崎の保存管理計画を行っており、植物や動物、歴史についての総合的な調査が実施され今後の自然環境の保護と管理についての報告が行われている。本企画展では、東平安名崎の自然と歴史について改めて理解を深めるとともに、その保護についての意識の高揚を図る。



慰霊の日関連特別展示

2011 年 6 月 16 日（木）～ 6 月 26 日（日）

「今に残る戦争遺跡」

趣旨：県内には多くの戦争遺跡が残されており、宮古諸島でも 66 ヲ所の戦争遺跡が報告されているが、民間の防空壕まで含めると、その数は更に増えることが予想される。これらの戦争遺跡を写真やパネル等を用いて展示することにより、戦争の悲惨さを改めて考える機会とする。



「宮古上布・琉球絣・久米島紬」

趣旨：県内には喜如嘉の芭蕉布、読谷花織、紅型、首里織、久米島紬、宮古上布、八重山上布など、古くから各地で織物の技術が発展をとげてきた。これまで当館では、宮古上布に関する企画展を何回か行ってきたが、今回は、久米島博物館、南風原文化センターと協力し、3 館合同企画展を実施する。宮古では普段見ることの少ない久米島紬や琉球絣、南風原花織を宮古上布と併せて展示、比較することで宮古上布について改めて認識を深める場とする。

協力：久米島博物館、南風原文化センター



特別展示

2011 年 9 月 21 日（水）～10 月 2 日（日）

「平成 20～22 年度発掘調査展」

趣旨：宮古島では、開発工事や確認調査のため毎年発掘が行われており、その中で、宮古の歴史を考える上で貴重な資料が多く発見されており、年代測定などの化学分析も実施されている。本特別展示では宮古島の発掘調査を紹介することにより、市民に埋蔵文化財への理解を深めてもらう機会とする。



文化の日関連特別展示
「平成 21・22 年度新収蔵品展」

2011 年 10 月 25 日（火）～11 月 6 日（日）

趣旨：平成 21～22 年度にかけて、当博物館に寄贈及び寄託された資料を広く市民に周知することを目的に、歴史、民俗、美術、工芸、自然の資料を紹介し、幅広い分野を学ぶ場とするとともに、当博物館に寄贈・寄託くださった皆様に謝意を表し、今後の資料収集活動への協力を呼びかけることを目的とする。



第 19 回企画展
「高校生学芸員企画展」

2011 年 12 月 20 日（火）2012 年～1 月 22 日（日）

趣旨：現在市内には 5 つの高校があり、それぞれで活発な文化活動が行われている。本企画展は、高校生の日頃の研究成果の展示・公開を行う場であると同時に、高校生に博物館・学芸員としての仕事を体験してもらうことで、今後の進路の一つとして考えてもらう機会としたい。

参加校：伊良部高校（伊良部島自然クラブ）、宮古特別支援学校（木工班・窯業班）、宮古高校（美術部・生物クラブ）、宮古工業高校（エコデン部・カート同好会）、宮古総合実業高校（水産クラブ・環境班・家庭クラブ）



第20回企画展
「さんしん展」

2012年2月25日（土）～3月18日（日）

趣旨：本企画展では、沖縄芸能において重要な位置を占める三線に焦点をあて、島に普及している三線に関する総合的な展示を行う。また、三線の歴史をたどり、三線のひろがりと可能性を探るとともに、島の芸能の今後を考える。

協力：沖縄県立博物館・美術館



第20回企画展
さんしん展

2/25 土
3/18 日

*初日は舞踊と三線の共演、展示期間中には三線鑑定会、小学生対象の親子カンカラ三線作り、チーガ一張り楽演、講演会、民謡発祥地巡りなどの催しが予定されています。日程は新聞などでご確認ください。

宮古島市総合博物館
0980-73-0567

平成 24 年度 企画展・特別展示・ミニ展示

第 21 回企画展

2012 年 4 月 25 日（水）～ 5 月 20 日（日）

「時代によってスタイルもかわる 祖先のすまい展」

趣旨：宮古島市内には、国指定 1 件、県指定 2 件、市指定 10 の墓・墓碑が文化財として指定を受けているほか、旧十六日祭などの民俗行事は、現在でも根強く残っており、お墓は私たちの生活に身近な存在となっている。また、発掘調査においても、様々な種類の墓の形態が発見されており、時代によっても変化してくる。本展示では時代ごとの墓の形態や変化について、写真やパネルにまとめ、さらに、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施している宮国元島上方古墳群の発掘資料を交えて展示を行う。

協力：沖縄県立埋蔵文化財センター



慰霊の日関連特別展示

2012 年 6 月 20 日（水）～ 6 月 29 日（金）

「宮古のあゆみ～戦争から復帰まで～」

趣旨：本特別展示は、6 月 23 日の慰霊の日にあわせ、過去の戦争の状況を振り返り、今一度平和とは何かと考える機会とする。また今年には沖縄が日本へ復帰して 40 年という節目の年であることから、「戦争」と「復帰」の 2 つをテーマにして、戦争から復帰までの宮古のあゆみについて、パネルや写真及び関連資料を展示する。



「宮古のマングローブ環境とそこに暮らす生き物たち」

趣旨：琉球列島の河川河口部には、ヒルギ類を中心とするマングローブ植物が生育する環境が見られ、琉球列島の高い生物多様性を支える重要な環境となっている。宮古島は、島の大部分が透水性の琉球石灰岩から構成されているため河川の発達が悪いものの、島の随所に湧水が見られ、それを起源としたマングローブ環境が成立している。近年では、宮古のマングローブ環境を利用した観光なども盛んになっているが、マングローブ環境やそこに暮らす生物達を紹介する機会は意外にも少ない。そこで本企画展では、宮古のマングローブの種類や環境、そこに暮らす生物について紹介する。

協力：藤田喜久



「第 2 回高校生学芸員企画展」

趣旨：宮古島市内の高校における文化活動の成果を展示・公開するとともに高校生が博物館の学芸員という職種に触れる機会を設ける。平成 23 年度に引き続き 2 回目の開催となる。今年度は、特別展の開催の周知のための広報や展示活動などに、前回以上に高校生が中心となって運営できるようにする。

参加校：伊良部高校（自然クラブ）、宮古工業高校（エコデン部・カート同好会）、宮古高校（生物部）、宮古総合実業高校（家庭クラブ・水産クラブ）、宮古特別支援学校



「現代宮古の作家たちⅩ」

趣旨：宮古島内外で活躍する宮古出身の作家たちの作品（絵画・オブジェ）を一堂に展示し、鑑賞するとともに宮古の芸術文化の向上に寄与する。




第23回企画展

現代宮古の作家たちⅩ

趣旨：宮古島内外で活躍する宮古出身の作家たちの作品を一堂に展示し、鑑賞を供するとともに、宮古の芸術文化の向上に寄与する。

平成25年2月23日（土）～3月24日（日）

 宮古島市総合博物館

平成 25 年度 企画展・特別展示・ミニ展示

第 24 回企画展

2013 年 4 月 27 日（土）～5 月 31 日（金）

「野鳥展～知ってほしい宮古の宝～」

趣旨：5 月 10 日～16 日は愛鳥週間に定められている。これに併せて、宮古の鳥について写真やパネル、剥製の展示を行い、宮古の自然について理解を深める。

協力：宮古野鳥の会



慰霊の日関連特別展示 「戦争と子どもたち」

2013 年 6 月 19 日（水）～6 月 30 日（日）

趣旨：本特別展示では、慰霊の日にあわせ、「戦争と子どもたち」をテーマに、戦前・戦時中の学校や教育、疎開、強制動員など、子どもたちから見た戦争をパネルや写真資料、戦争関係資料とともに展示する。また、沖縄県平和祈念資料館から借用した沖縄戦の写真資料や実物資料を展示・公開する。展示をとおして、過去の戦争の状況をふりかえり、考える機会とする。

協力：沖縄県平和祈念資料館



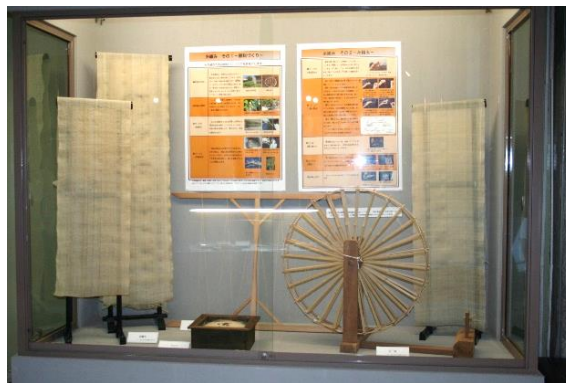
第 25 回企画展

2013 年 7 月 20 日（土）～9 月 1 日（日）

「美ぎ布展～苧麻糸が繋ぐ伝統の技～」

趣旨：本企画展では、宮古上布をテーマとし、博物館所蔵の宮古上布の着物や反物の他各協力団体及び個人所蔵の宮古上布を展示公開する。また、宮古上布の歴史や高機が導入される以前に使用されていた地機について解説し、総合的な織物について改めて認識を深める機会とする。

協力：宮古織物事業協同組合、宮古上布保持団体、宮古苧麻績み保存会、宮古織物研究会、宮古島観光協会、比嘉克子



特別展示

2013 年 10 月 23 日（水）～11 月 10 日（日）

「平成 23・24 年度新収蔵品展」

趣旨：平成 23～24 年度にかけて、当博物館に寄贈及び寄託された資料を広く市民の皆様に周知させることを目的とし、歴史、民俗、美術、工芸、自然の資料を紹介することで、幅広い分野を学ぶ場とする。また、当博物館に寄贈、寄託された皆様に謝意を表するとともに、今後の資料収集活動への協力を呼びかける。



特別展示

2013年12月11日（水）～2014年1月12日（日）

「金井喜久子展」

趣旨：日本人女性で初めて交響曲を書いたといわれる宮古出身の作曲家「金井喜久子」をテーマにした展示とする。

協力：金井弘志、新城悦子、ひめゆり平和祈念資料館、宮古島市うえのドイツ文化村、宮古島市立図書館



第26回企画展

2014年2月14日（金）～3月18日（火）

「宮古人のルーツを探る Part 2 ～先史時代（無土器期）の宮古～」

趣旨：平成22年度に開催した、第16回企画展「宮古人のルーツを探る Part1-12世紀～16世紀の宮古～」に続き、今回は宮古島の先史時代に焦点をあてた展示内容とする。宮古の先史時代は、約2,800年前から1,800年前とされていたが、近年の発掘調査の成果で、この年代層も見直す必要が出てきた。また、この時期の特徴として、シャコガイ製貝斧や焼き石調理跡などが検出されることや、土器を製作しない文化であることが挙げられる。さらに、沖縄本島との文化的なつながりは見えず、シャコガイ製貝斧や焼き石調理跡から南方系の文化を持った集団であろうと考えられている。現在、無土器期の後のグスク時代との間には空白の期間があり、宮古の人々のルーツを考える上で重要な時期である。この展示をとおして、宮古の歴史を学ぶとともに、宮古の人たちのルーツを考える機会を提供する。

協力：石垣市教育委員会、石垣市立八重山博物館、沖縄県立埋蔵文化財センター、沖縄国際大学、国立民族学博物館、西九州大学、宮古島市教育委員会文化財係



平成 26 年度 企画展・特別展示・移動展

特別展示

2014 年 5 月 2 日（土）～5 月 27 日（火）

「伊良部島・下地島の生きもの展～生物多様性調査プロジェクトの調査報告～」

趣旨：2015 年の伊良部大橋の開通に先駆け、「伊良部島・下地島 生物多様性調査プロジェクト 2012～2013」が行われた。本企画展では、この調査プロジェクトの結果を写真パネルや標本などを展示して紹介することで、伊良部島・下地島の生き物を学ぶ機会とする。



慰霊の日関連特別展示

2014 年 6 月 6 日（金）～6 月 27 日（金）

「戦争とは何か～モノから考える～」

趣旨：本特別展示では、慰霊の日にあわせ、主に当館所蔵の資料を展示する。展示をとおして、過去の戦争の状況や戦時中の宮古での生活を振り返り、考える機会とする。また、小学校高学年～中学生程度を対象に、何点かの資料をQ & A方式で紹介する。



移動展 in 伊良部

2014年6月13日(金)～6月30日(月)

「伊良部島・下地島の生き物展 ～生物多様性調査プロジェクトの調査報告～」

趣旨：平成26年5月2日～5月27日の期間、当館で開催した特別展示「伊良部島・下地島の生きもの展～生物多様性プロジェクトの調査報告～」を伊良部島でも移動展として開催することで、多くの方々が伊良部島・下地島の生き物について学ぶ機会とする。

会場：サンマリナーミナル（佐良浜港）、マリナーミナル（平良港）



第27回企画展
「虫むし展」

2014年7月25日(金)～8月26日(日)

趣旨：宮古諸島で確認されている昆虫類を紹介する。展示期間が夏休み期間中なので、内容を小・中学生を対象にしたものとし、宮古の子どもたちに、自然に対する理解や関心を深めてもらう機会とする。



「クバものがたり」

趣旨：クバとはヤシ科の植物で、沖縄においてはクバガサやクバ扇などの民具の素材として知られ、かつて人々の生活に身近にあった。

また、クバは神様の依り代と考えられ、御嶽で多く見ることができ、さらに、祭祀や伝統行事の中でもクバが使われているものが多い。このことから、沖縄の人々にとって、クバは精神的にも何かしらの意味のある植物であったと考えられる。

本企画展では、沖縄の人々との関わりの深い植物であるクバを取り上げて、クバについて植物・民俗・歴史・美術の4つのテーマに分けて紹介する。

協力者：小川京子

協力機関：沖縄県立博物館・美術館



宮古島市総合博物館
第28回企画展

クバものがたり
種からアートまで

2015年2月13日(金)→3月10日(火)
平成27年

企画展進行 座談会「クバから広がる」
日時：2月13日(金)14:00～16:00 対 参加無料
場所：宮古島市総合博物館・研修室 ※会場無料

1. クバとは
2. 暮らしの中のクバ
3. クバが登場する民話・伝説
4. クバが使われる祭祀・行事
5. 歴史書にみられるクバ
6. 宮古の織織とクバ
7. クバとアート

開館時間：午前9時～午後4時30分（ただし入館は4時まで）
休館日：月曜日・祝祭日
入館料：大人300円・高・大学生200円・小・中学生100円（土日は高校生以下無料）
主催：宮古島市総合博物館 <問い合わせ>
協力：小川京子（バスケットアーティスト） 宮古島市総合博物館（tel.0980-73-0387）

平成 27 年度 企画展・特別展示・ミニ展示

慰霊の日関連特別展示

2015 年 5 月 29 日（金）～ 6 月 30 日（火）

「戦後 70 年 残されたモノ ～記憶・記録・モノ・遺跡～」

趣旨：戦後 70 年を迎える今年、戦争体験者の減少とともに戦争の記憶が風化されつつある。だが一方で、70 年残されたモノがある。

本展示では、慰霊の日にあわせ、戦争体験（記憶）や資料（記録・モノ）、戦争遺跡などを通して、過去の戦争を知り考える機会とする。



第 29 回企画展

2015 年 7 月 17 日（金）～ 9 月 1 日（火）

「ピルマス展～宮古にあふれる謎・不思議～」(宮古島市市制施行 10 周年記念事業)

趣旨：宮古のピルマス（不思議なもの）をテーマに、自然、歴史、民俗の中のピルマスを紹介する。



「平成25・26年度新収蔵品展」

趣旨：平成25～26年度にかけて、当博物館に寄贈及び寄託された資料を広く市民の皆様
に周知させることを目的とし、歴史、民俗、美術工芸、自然、視聴覚資料を紹介する
ことで、幅広い分野を学ぶ場とする。

また、当博物館に寄贈、寄託された皆様に感謝するとともに、今後の資料収集活
動への協力を呼びかける機会とする。



新収蔵品展

平成25・26年度

全498点
歴史 民俗
自然 美術
視聴覚資料

2015 平成27年 10月30日 [金] → 12月1日 [火]

写真：(上段左) 志摩長持宗徳家伝牌 (上段中) 平島中学校学生機 (上段右) 電灯明機
(下段左) カヤヤー写真 (下段中) ツミと鳥獣 (下段右) ツミと鳥獣

開館時間 9:00～16:30 (ただし入館は16時まで)

月曜日・祝祭日は休館

※11月3日(火)文化の日は開館

宮古島市総合博物館

〒990-0011
宮古島市平良字東仲宗根1160-287

入館料 大人300円、高・大学生200円、
小・中学生100円 (土日は高校生以下無料)

電話：0880-73-0567
FAX：0880-73-0822

平成 28 年度 企画展・特別展示・ミニ展示

ミニ展示

2016 年 4 月 30 日（土）～ 5 月 12 日（木）

「昔なつかしい昭和のおもちゃ展」

趣旨：こどもの日にあわせ、昔のおもちゃを展示し体験してもらうことで、子ども時代の懐かしい遊びを思い出してもらう。また、これらのおもちゃを知らない世代の子ども達にも、かつてのおもちゃを学び遊んでもらう。



慰霊の日・平和展

2016 年 5 月 27 日（金）～ 6 月 26 日（日）

「宮古における日本軍の展開」

趣旨：当館では、慰霊の日にあわせ毎年展示会を開催している。

今回は、宮古における日本軍の配備状況について資料や戦争遺跡などを紹介し、展示をとおして、過去の戦争の状況や戦時中の宮古での生活を知り、考える機会とする。



「宮古の危険生物」

趣旨：美しい海と自然を有する宮古諸島では、夏場には多くの人たちが、マリレジャー、キャンプ、バーベキューなどの野外活動を行う。一方、宮古には多種多様の生物が暮らしているが、それら生物の中には、体内に毒を貯える種や、鋭い棘や歯を持つ種も存在し、時折人間に害を及ぼす事例も発生するため「危険生物」と見なされている。しかし、これらの「危険生物」は、あくまでも外敵からの防御や餌をとるためなどに毒や棘などを発達させたものであり、過度に恐れるべきものではない。今回の特別企画展では、宮古の陸と海に生息する「危険生物」への理解を深め、安全で楽しい野外活動ができるよう、宮古島市民や観光客らに広く普及・啓発することを目的とする。

協力：藤田喜久



「現代宮古の作家たちⅩ」

趣旨：宮古島内外で活躍する宮古出身の作家たちの作品（絵画・オブジェ）を一堂に展示し、来館者の方々へ紹介するとともに、宮古の芸術文化の向上に寄与する。



平成 29 年度 企画展・特別展示・ミニ展示

ミニ展示

2017 年 4 月 30 日（日）～5 月 7 日（日）

「昔なつかしい 昭和のおもちゃ展」

趣旨：こどもの日にあわせ、昔のおもちゃを展示し体験してもらうことで、子ども時代の懐かしい遊びを思い出してもらう。また、これらのおもちゃを知らない世代の子どもたちにも、かつてのおもちゃを学び楽しんでもらう。



平和展

2017 年 5 月 19 日（金）～6 月 25 日（日）

「沖縄返還から 45 年 復帰への歩み」

趣旨：本特別展示は、6 月 23 日の慰霊の日にあわせ、過去の戦争の状況を振り返り、今一度平和とは何かを考える機会とする。

また今年、沖縄が日本へ返還されて 45 年を迎えることから、「戦争」と「復帰」の 2 つのテーマにして、戦争から復帰までの歩みをパネルや写真、関連資料を展示する。



ミニ展示

2017年6月30日（金）～8月31日（木）

「与那覇湾^{ワン}ダーランド～与那覇湾の自然と生きもの～」

趣旨：2012年に「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）に登録された与那覇湾について、与那覇湾で記録されている野鳥を中心に紹介することで、与那覇湾の自然と生きものについて理解を深める。

協力：宮古野鳥の会



第32回企画展

2017年8月1日（金）～8月31日（木）

「大正時代・ミヤークぬ写真展
～ロシア人言語学者ネフスキーの見た宮古の風景～」

趣旨：天理大学附属図書館が所蔵するニコライ・A・ネフスキーが撮影した大正時代の宮古の写真を展示することで、撮影当時の宮古の様子を知るとともに、ネフスキーについても興味・関心を深める機会とする。

協力：天理大学附属天理図書館、宮古島市総合博物館友の会



ミニ移動展 in 城辺公民館
「中村十作展」

2017年8月17日（木）～8月27日（日）

趣旨：新潟県上越市板倉区と本市城辺地区では、板倉区出身の中村十作が宮古の人頭税廃止に尽力されたことを縁として、平成6年より交流事業を行っている。中村十作や人頭税廃止運動を中心に紹介し、人頭税について両地区の子どもたちが学ぶことで、交流事業の意義を考える機会とする。

中村十作生誕 150 周年記念 ミニ展示 2017年9月29日（金）～10月29日（日）
「宮古・八重山の歴史を変えた男 ～人頭税廃止運動の立役者とは～」

趣旨：2017（平成29）年1月18日に中村十作が生誕して150周年を迎えた。これにあわせ、中村十作と人頭税廃止運動を中心に紹介することで、人頭税について学ぶ機会とする。

協力：新潟県、上越市、中村十作記念館



「平成27・28年度新収蔵品展」

趣旨：平成27～28年度にかけて、当博物館に寄贈及び寄託された資料を広く市民の皆様に周知させることを目的とし、歴史、民俗、美術工芸、自然、視聴覚資料を紹介することで、幅広い分野を学ぶ場とする。

また、当館に寄贈、寄託された皆様に感謝するとともに、今後の資料収集活動への協力を呼びかける機会とする。



平成 30 年度 企画展・特別展示・ミニ展示

ミニ展示

2018 年 4 月 27 日（金）～ 5 月 13 日（日）

「昔のおもちゃ展」

趣旨：こどもの日にあわせ、昔のおもちゃを展示し体験してもらうことで、子ども時代の懐かしい遊びを思い出してもらう。また、これらのおもちゃを知らない世代の子どもたちにも、かつてのおもちゃを学び楽しんでもらう。



平和展

2018 年 5 月 25 日（金）～ 6 月 24 日（日）

「米軍撮影空中写真からみる戦中の宮古」

趣旨：沖縄県公文書館所蔵の米軍撮影空中写真（1945 年 5 月～1946 年 2 月撮影）を通して、戦中の宮古の状況を知るとともに、平和について考える機会を提供する。

協力：沖縄県公文書館、宮古島市教育委員会生涯学習振興課



第 34 回企画展

2018 年 8 月 10 日（金）～ 9 月 16 日（日）

「東松照明写真展 沖縄・宮古 1972～1983

－46 年前子どもだったあなたは、今どうしていますか－

趣旨：写真家東松照明が撮影した宮古島関連の写真を再編集し展示することで、来館者が東松の見たかつての宮古島の姿を知るとともに、復帰直後の宮古の風俗や当時の社会事情を学ぶ機会とする。

特別協力：東松照明オフィス INTERFACE

後援：宮古島市文化協会・宮古テレビ株式会社

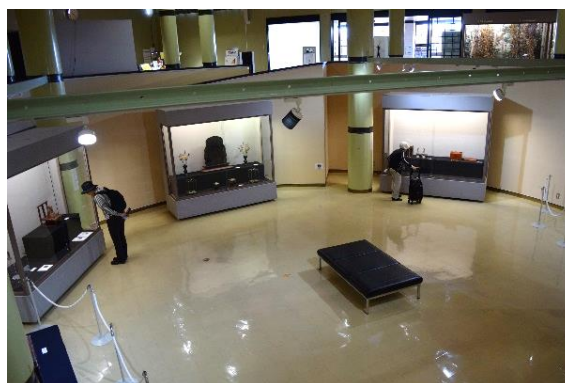


第 17 回博物館講座関連展示

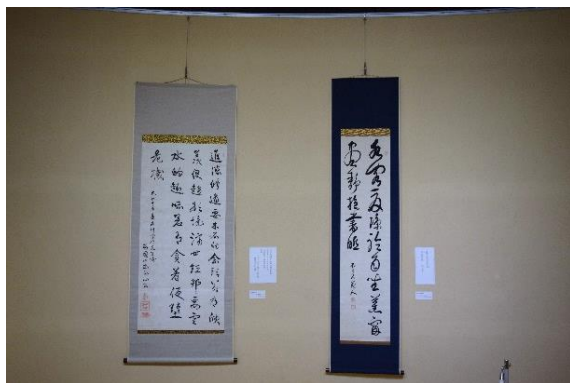
2018 年 10 月 3 日（水）～ 10 月 14 日（日）

「宮古島市総合博物館『もの』がたり」

趣旨：10 月 7 日（土）に開催した第 17 回博物館講座「宮古島市総合博物館「もの」がたり－近年の収蔵資料調査による新発見と価値の再検証－」（講師：稲福政齊氏）に関連する当館所蔵の旧家・祥雲寺資料、美術工芸資料を展示することで、講演会についてより理解を深める。



趣旨：第17回博物館講座の関連ミニ展示(10月3日～10月14日開催)にて展示した資料のうち、特に好評だった数点を厳選してアンコール展示をすることで、当館所蔵資料について理解を深める機会とする。



第十七回博物館講座関連
アンコールミニ展示

宮古島市総合博物館

「もの」がたり

宮古に残された数々の名宝

2019年1月4日(金)～1月13日(日)
宮古島市総合博物館特別企画展示室

主催：宮古島市総合博物館
協力：稲福政斉氏(宮古島市総合博物館協議会副会長/沖縄国際大学、沖縄大学非常勤講師)

- 開館時間：9時～16時30分 ※入館は16時まで
- 休館日：毎週月曜日
- 入館料：一般300円/大学・高校生200円/小・中学生100円
- 問い合わせ：宮古島市総合博物館(0980-73-0567)

土・日
高校生以下
無料